

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

部門名：カリキュラム・マネジメント 実践部門 エントリー名：加賀市立金明小学校	
活動名：人権意識の向上を目指して～人権教育プログラムを活用を通して～	
解決すべき課題： ・相手の立場になって考える思いやりのあるやさしい心を育成するには ・自己肯定感を向上させるには	
目標・方針： ・重点目標を以下の 3 つとし、取組の全体像が把握できる人権教育プログラムを作成し、研究を推進した。 1 授業の充実（①人権が尊重される 3 つの視点を重視した授業づくり②わかった！のある授業づくり） 2 個別的な人権課題への深い理解（障害者・外国人・高齢者を中心に） 3 自己肯定感の育成（宝物ファイルの取組）	
活動内容： 1 重点目標 1 について ① 人権が尊重される授業づくりの視点 3（自己存在感、共感的人間関係、自己選択・決定）を重視。 ② 主体的に考える授業（金明学び合いスタンダードの定着・・・図 1）人権教育プログラム（カリキュラム・マネジメント・・・図 2）を活用した授業の実践。 2 重点目標 2 について 車いすバスケットボール体験学習、盲目のピアニストコンサート等相手理解と尊重し合うことを学ぶ。 3 重点目標 3 について 自分のいいところや自分の頑張りをファイリングすることより自分を好きになる取組を実施する。	
活動の成果： ・人権が尊重される授業づくりをすることで、意欲的に自分の考えを深めたり、広めたりできた。・・・グラフ 1 ・体験学習を通して、相手を理解し、お互いに思いやり、尊重し合うことの大切さを学んだ。また、「違いを認め、自分らしく生きる」よさを知り、ありのままの自分でよいと考える子が増えた。・・・グラフ 2 ・宝物ファイルの作成により、自分のよさを改めて知り、自己肯定感を高めることができた。・・・グラフ 3	
アピールポイント（アイデアや工夫）： ※3～5 つ程度、簡条書きしてください ・学校全体で目指す児童の姿（ゴールの姿）を明確にし、その姿に迫るために各学年が人権教育プログラム作成することで、1 年間を見通した取組ができ、組織的に児童の目指す姿に近づくことができた。 ・人権教育プログラムの作成は、日々の授業が単発で終わらず、前後の授業や取組との関連で実施できるので、目指す姿に迫るために有効である。 ・教師自身が目標達成のためには、教育課程や学校の取組をカリキュラム・マネジメントし、全体像を明確することの大切さを実感した。	

<写真、図表添付欄>

(図 1)

金明学び合いスタンダード

☆あたたかい聴き方

- ・目と耳と心で聴く
- ・おわりまで聴く
- ・うなずいて聴く
- ・相手の言いだいことを分かつろうと思って聴く
- ・あたたかい反応で聴く

☆やさしい話し方

- ・相手のことを考えて話す
- ・つなげて話す

☆「わからない」から「わかった!!」

- ・「わからない」を大事にする
- ・「わからない」からスタートする

☆input(インプット)output(アウトプット)

- ・しっかりきく・本気できく（本気の一歩）
- ・すすんで話す・勇気を出して話す（勇気の一歩）

☆みんなで創る授業

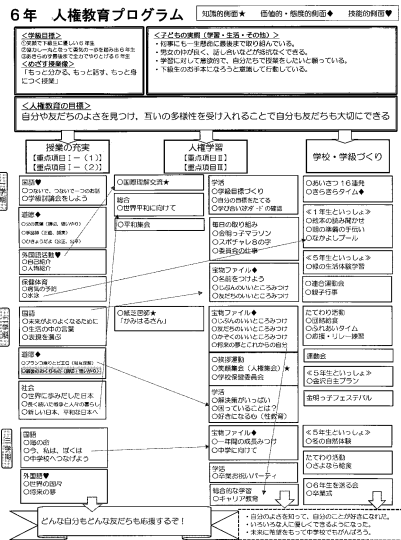
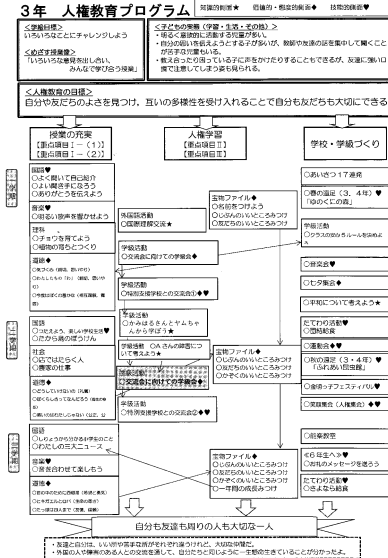
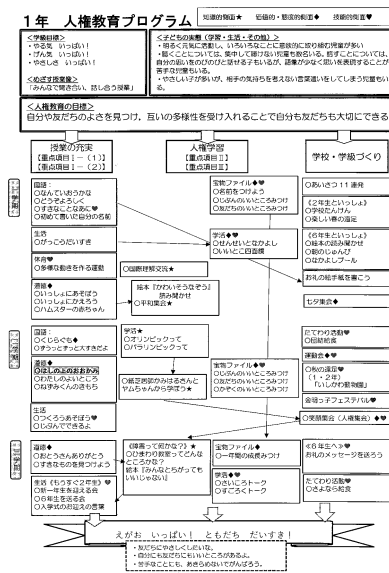
- ・自分の考えを持つ
- ・自分の考えを話す
- ・自分たちで進める
- ・学びをふり返る
- ・意見をつなぐ
- ・自分たちでまとめる



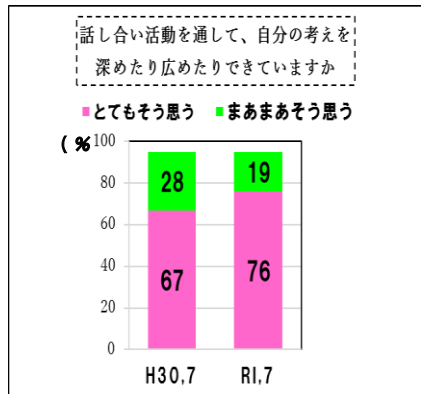
【金明学び合いスタンダード】

【金明学び合いスタンダード全校交流授業】

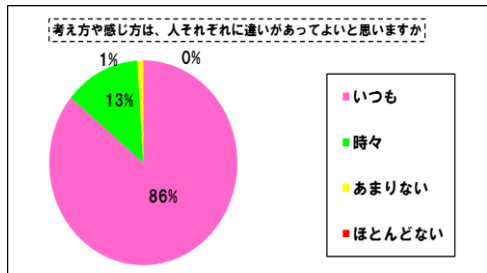
(図 2)



(グラフ1)



(グラフ2)



(グラフ3)

